

# 一人ひとりの「たから」をつなぐ

- 社会福祉法人設立三十年のあゆみ -



山形村／なろう原公園から展望する（平成30年10月撮影）

社会福祉法人設立三十周年記念誌

社会福祉法人 山形村社会福祉協議会

## 会長挨拶

山形村社会福祉協議会は、昭和63年7月19日に社会福祉法人として設立（移行）されて、本年、三十周年を迎えました。

この間には幾多の困難も生じましたが、地域住民の皆様の変わらぬご支援と社協に関わった多くの方々のご努力で克服され、今では事業所14区分、扱い高3億9千万円、各種資格保有者と協力者含め職員72名に至っています。

あらためて今までの事業を思い起せば、かつての「困難」も、私たちの可能性を引き出してくれる「素晴らしい出来事」に他ならなかったことを気付かせてくれます。住民の皆様と社協活動に関わってくださった多くの方々には、心から厚く感謝申し上げる次第であります。

地域福祉は、社会の急速な変化により、ますます重要になっています。社会福祉法人山形村社会福祉協議会は、皆様が三十年間に築き上げてくださいました実績を「宝」（たから）として、これからも継承して行きます。

今、社協に携わっている役員は、行政と連携し、地域の皆様や福祉関係の皆様と力を合わせ、地域の福祉課題に取り組み、山形村にお住まいの皆様が安心して暮らせる「地域福祉」を実現する決意であります。そして、皆様から信頼され愛される「社協」を目指し、努力を重ねます。

今後とも住民の皆様のご支援と関係する皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



中村 一博 現任会長

就任期間 平成28年6月— 現在

## 歴代会長からの言葉



齋藤 清 第二代会長

就任期間 平成9年3月-平成17年3月

### ◆「社協」三十年に寄せて

私が「社協」の会長として村長兼務で在職したのは、平成9年3月からの八年間でした。当時「社協」の事務所を置いた拠点施設は平成六年に建てられた「ふれあいの館」（現在の児童館）で、大広間や風呂場・休憩室などもあり、放課後の児童や、お年寄りなどの利用も結構多かった様ですが、何としても手狭であること、また、当時は高齢福祉に障害福祉の機能を加え利用できる、本格的な福祉施設を期待する声が高まっていました。

こんな村内事情もあって、村では平成十年頃から新施設の規模・場所などの検討を進めていましたが、最終的には関係地権者のご理解も戴いて、平成13年に現在の「いちいの里」が竣功し、村における保健と福祉の両翼を担う拠点施設としてスタート致しました。

以来関係者のご尽力もあって「社協」の活動は拡大を続け、先日のアンケートにもありましたが、現在は大小三十事業以上が年間計画の中に組み込まれるほどの活躍であります。

さて「社協」が発足した三十年前、村は約千五百世帯で、一世帯平均の人口は4.1人でありましたが、現在は、約三千世帯と倍増し、一方で世帯平均の人口は2.86人で、三人を割る時代となりました。

この事は、世帯内での介助（護）力の大幅に低下する世帯の急増につながり、今後の村内での福祉活動の展開では重視すべき課題であると思われま

### ◆「社会福祉協議会」のさらなる飛躍を期待

山形村社会福祉協議会が社会福祉法人として設立されてから、三十年の歳月が流れました。この間、住民の福祉ニーズが量的に拡大し、かつ、多様化する中で、社協の組織は目覚ましい発展を遂げてまいりました。

設立当初は、トレーニングセンターの一部を拠点として、数名の職員のみでのスタートだったようです。その後、平成6年春に新設なった「ふれあいの館」に拠点を移すこととなりました。当時は、住民の福祉サービスの拡大と共に、利用者も年々多くなったために、職員も二十数名に増員されました。

更に、平成13年秋には「いちいの里」が完成されて、当会は再度の拠点の移転となり現在に至っています。今日、七十数名の職員が、日々各職場において、職務遂行に全身全霊で励んでいただいております。

ついこの間迄「人生八十年時代」と言われていましたが、最近、頻繁に「人生百年時代」という言葉を耳にするようになりました。確かに、我が国の人口構造の高齢化が急速に進んでいますし、生活水準の向上や核家族化等に伴い、福祉ニーズはますます拡大し、かつ、多様化して生きていると思います。

山形村の地域福祉の中核的役割を背負っている「山形村社会福祉協議会」のさらなる充実、発展を心から祈念すると共に、皆様方のご健勝とご多幸を願っております。



清沢 實 第三代会長

就任期間 平成17年3月-平成20年3月

\*本庄 國二 初代会長 (故人) 社会福祉法人の会長としての就任期間 昭和63年7月 - 平成9年3月

## 祝 辞

山形村社会福祉協議会が設立30周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。貴会が社会福祉法人として設立から、今日まで多大な発展を続けて来られましたことは、会員を始め関係者各位のご努力によるものであり、ここに、あらためて敬意と感謝の意を表します。

さて山形村は、明治7年、大池村・小坂村・竹田村の合併により誕生し、以来144年の歴史を刻んでおります。戦後、昭和40年代には、5千人を切った村の人口でありましたが、50年代には松本市からの転入者も増加し、平成25年には、8,844人となり、県内でも人口が増加する、活力のある村となりました。しかし、翌26年からは、わずかですが人口が減少する時代へと向かう傾向が見られるようになりました。また、少子高齢化が進む中、個人の意思や生活の質が重要視される社会の変化や個人の意識変化を背景に、村民の健康福祉への需要も増大、多様化、複雑化しております。

平成の時代と共に歩んで来られた山形村社会福祉協議会は、社会福祉法人として設立三十周年の節目の年を迎え、更には新しい年号のもとに、新しい時代を歩もうとされています。このような時節にあつて、貴会には、村民一人ひとりが「この村に住んでよかった」という想いを抱くことができる豊かな地域社会を創るため、村と連携し地域における健康福祉の推進役としての役割を果たして頂くことが期待されます。

終わりに、山形村社会福祉協議会の今後益々のご発展と、ご関係の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



本庄利昭 山形村長

## 歴代会長からの言葉



逢澤佳丸 第四代会長  
就任期間 平成20年4月-平成24年5月

### ◆懐かしい思い出

山形村社協は、今から十年前の平成20年に大きな機構改革を行い、それまで村長が兼務していた社協の会長職を民間から選出することになり、不肖私が初代の会長に就任しました。元より浅学非才にしてこの道には全くの素人ゆえに当初は困惑の日々でしたが、職員の皆様方の温かいご支援とご協力により、新体制の運営を順調に軌道に乗せることが出来、楽しく過ごさせていただいた四年間でした。

平成18年に開設された「建部の里」を、地域福祉の新拠点として充実を図り、通所介護事業を中心に障害児の支援事業として農園の経営やフランス鴨の飼育を行ったり、「たてべ子ども広場」を始めたのもこの頃でした。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災への支援では、救援物資の調達、発送・義援金の募集チャリティバザーの実施等で、一千万円近くが集まり、被災地へ送金できました。また三回にわたる現地での救援活動を行うためのバスパックでは、延べ60名近い方々が参加されたこと、職員の皆様は通常業務に加えての対応で大変ご苦労頂いたことに、今更ながら感謝申し上げます。

二十周年記念での庄司歌江さんの講演会、各地区で開いた「ふれあい寄席」で古今亭菊生師匠の落語を楽しんだこと等々、懐かしい思い出です。この限られた紙面では私の四年間の体験を到底語りつくせませんが、ここで今後の山形村社協の益々のご発展を祈念し、お祝いの挨拶と致します。

### ◆社会福祉法人設立三十周年を記念して

昭和63年7月19日に法人化して、組織理念（基本理念）である、だれもが幸せに生きられる地域社会を創ること目標に、住民一人ひとりの生きがい感に充たされた暮らしの創造をすること、山形村及びその周辺地域の発展に貢献することを掲げて活動してまいりました。

私も、平成22年度より副会長に就任、平成24年度から会長の職を務めることとなりました。前任の逢澤会長より引継ぎをして、その年「いちいの里すばる」の建設に取り組みました。

当施設は、多目的福祉施設として設置され、いろんな施設機能が「統（す）ばる」ところから「すばる」と名づけられました。建物（施設）の主な概要は、小規模多機能型居宅介護事業所です。住み慣れた自宅や地域の中で、家族や親しい人たちと共に、その人らしい生活が送れるよう、当時としては先進の通い・訪問・泊まりを中心に介護のお手伝いをさせていただく施設。また、村としては初めての本格的な障害者の就労支援施設。地域交流施設も併設できたこと。またその建設過程で、あれこれと関係者と想いを巡らせたことが、今となっては、一番の思い出となっています。

三十周年を迎え、益々地域に根付くことができた山形村社会福祉協議会。これからも基本理念に沿って、住民の皆様から愛され、信頼されることを願い、役職員の皆様の一層のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。



福澤倫治 第五代会長  
就任期間 平成24年6月-平成28年5月

# 山形村社会福祉協議会／社会福祉法人設立三十年のあゆみ

事業年度	できごと	トレーニングセンター業務拠点期
昭和63年度～平成5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■社会福祉法人設立／任意社協（昭和34年4月創設）の諸事業を継承／トレーニングセンター内に事務局（事務所）を設置する。（昭和63年7月19日）</li> <li>*主な継承事業 家庭奉仕員派遣事業（後にホームヘルプサービス事業と改称される。）</li> <li>入浴サービス事業 慰霊祭斎行 援護・激励事業（施設訪問・歳末訪問）心配ごと相談事業他</li> <li>■会員募集と会員組織の発足（昭和63年8月）</li> <li>■社協広報「まほろば」の創刊（昭和63年8月）</li> <li>■初回／社会福祉大会の開催（昭和63年12月）</li> <li>*平成2年度以降は「健康と福祉のつどい」に継承</li> <li>■ボランティアスクールの開催（平成元年3月-6月）</li> <li>*初のボランティア養成のための講座の企画</li> <li>■デイケアサービス事業の開設（初の通所事業）</li> <li>*平成元年6月から平成3年3月まで開設</li> <li>*後に「デイサービス事業」へと継承されて行くこととなる。</li> <li>■第1回「山形ふれあい寄席」の開催（平成元年11月／（於）トレセンふるさと大ホール）</li> <li>*以後「山形ふれあい寄席」は、山形社協のふれあい交流行事の基幹的行事として継承されることとなる。</li> </ul>  <p>▲抱腹絶倒！古今亭圓菊師匠の寄席</p>	 <p>▲デイケアサービスの開催（於）トレセン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■初回／健康と福祉のつどい開催（平成2年12月）</li> <li>*行政担当部局と当分の間協働し開催される。</li> <li>*以後の「健康と福祉のつどい」の記載省略</li> <li>■「デイサービス事業」として運営再開（平成3年7月）</li> <li>*村委託事業に移行するまでの間（平成6年5月まで）</li> <li>■山形村ボランティア連絡協議会を結成</li> <li>（平成4年7月-平成14年3月の間活動を実施）</li> <li>■Yes 広報／「ふれあい広場まほろば」の放映</li> <li>*平成4年度以降／「ふれあいネットワーク」等改称</li> </ul>
事業年度	できごと	老人と子供のふれあいの館／業務拠点期
平成6年度～平成7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ふれあいの館に事務所移転（平成6年5月1日）</li> <li>■デイサービスふれあい事業（D型）開設</li> <li>*村より受託運営開始（平成6年6月）</li> <li>■ボランティアセンターの設置・運営開始</li> <li>■まほろばセミナーの開講</li> <li>■人形劇フェスティバル・おひさまコンサート</li> <li>まほろば納涼祭・まほろば運動会の開催</li> <li>■ふれあい児童館事業・放課後児童対策事業・ふれあいの館管理運営事業の受託運営</li> <li>（平成7年度から平成11年度まで受託運営）</li> <li>*小型児童館事業／レインボークラブの開設</li> <li>わんぱく探検隊・遊ゆう工房・リトルサウンド</li> <li>*小型児童館事業／各種児童館教室の開催</li> <li>親子グルメ教室・ちびっこ星座教室</li> <li>元気がでるスポーツ教室・子ども手話教室</li> <li>子ども囲碁将棋教室・ちびっこ陶芸教室</li> <li>ちびっこパン教室・トールペイント教室 他</li> <li>*放課後児童対策事業の実施</li> <li>児童クラブ／ちびっこ楽舎の開設</li> <li>*レインボーフェスティバル／ふれあい児童館</li> <li>子ども会文化祭の開催</li> <li>レインボークラブ並びに各種児童館教室の活動発表会として企画・実施される。</li> <li>*その他ふれあいの館としての諸事業を実施</li> </ul>	 <p>▲館行事の常連のお客様は園児／人形劇フェス</p>  <p>▲「機炊沢」で飯盒いさん／わんぱく探検隊</p>  <p>▲天体望遠鏡の操作学習／ちびっこ星座教室</p>

平成8年度～平成11年度

- デイサービスふれあい事業（B型移行）を村より受託運営（平成8年4月以降）
- ポケットハイキングサービスの開始（平成8年6月以降）
- 山形村ボランティアセンターの設置
  - ・ 運営の開始（平成9年4月以降）
  - \* ボランティアライブラリーの設置
  - \* ふれあいフォーラム21（ボランティア体験学習講座）の開始 他
- ふれあい・いきいきサロン事業の開始
  - \* サロン・キーパーソンの養成と支援活動開始（平成9年10月）
  - \* 村内各地域にサロン開設される。
- ちくまネットワーク／東筑町村社協／地域福祉活動推進委員会の設置（平成11年4月）\*介護保険事業への取り組みに向けて研究\*東筑町村社協連携による地域福祉活動展開（平成10年～平成22年までの間）



▲きらきらサロン（下竹田上手村）の活動から



▲居宅介護サポートセンターの活動開始

- ホームヘルプサービスの早朝・夜間・祝祭日訪問（ホリデーサービス）、デイサービスセンターふれあい（E型併設・365日対応型）の開始（平成10年6月）
- 介護保険事業スタート
- 介護保険事業所「居宅介護サポートセンターふれあい」の開設（平成11年10月）
- 介護保険事業所「ホームヘルパーステーションふれあい」「デイサービスセンターふれあい」の開設（平成12年4月）
- 村受託事業／生活支援事業（外出支援サービス事業・軽度生活援助事業）介護予防事業（生きがい活動支援通所事業）を介護保険制度の周辺施策として運営開始（平成12年4月以降）
- まほろばカレッジの開設\*地域福祉課題をみんなで考える学習講座（平成12年9月以降）

事業年度

できごと 山形村保健福祉センターいちいの里 **業務拠点期**

平成13年度～平成17年度

- 村受託事業／配食サービス事業（生活支援型）の運営開始（平成13年5月以降）
- 保健福祉センターいちいの里に事務所移転（平成13年9月1日）
  - \* 同時に各介護保険事業所等を移設
  - \* 各名称を「いちいの里」に改称
- 地域生活支援ネットワーク「ほほねっと」の事業構想の展開（平成14年4月以降）
  - \* 同構想による心身障がい（者）タイムケアサービス（後の日中一時支援事業）・障害者施設移送サービス・外出支援サービス・生きがい活動支援通所サービス・配食サービス等の展開



▲まほろばカレッジ／ガイドヘルパー養成講座の開催

- まほろばカレッジ／訪問介護員等養成講座の開設（平成14年6月以降敷地にわたり企画開設）
  - \* 地域福祉を学ぶ、みんなのキャンパス \*以後ガイドヘルパー養成等にも取り組む。
- 地域福祉推進委員会の設置 地域福祉活動計画等の企画推進機関（平成14年8月設置）
- ほほねっと企画／むかごちゃんプロジェクト立ち上げ、活動開始（平成15年10月）
  - 地域福祉と地域貢献実践のための人づくり協定による活動展開（平成15年11月）
    - \* 山形村社協と松本大学等の間で協定。更に平成22年以降は（株）松本倉庫を加え三者協定。プロジェクトY等の活動試行。
  - 新潟県中越地震の被災地域救援活動のため職員派遣（ちくまネットワーク）（平成16年10月-11月）
    - \* 以後災害被災地域への職員派遣随時実施
  - 全国社協会長／優良活動社協表彰受賞（平成16年11月）
- 村受託事業／福祉の家「ほのほの」の運営
  - \* 地域密着型サービスの試行（平成17年4月）



▲ほほねっと企画「むかごちゃんプロジェクト」から

事業年度

できごと 山形村保健福祉センターいちいの里 **業務拠点期**

平成18年度～平成20年度

■コミュニティハウス建部の里開所（介護保険事業所等の新設）（平成18年4月）

\*地域密着型福祉サービス施設として開設され、認知症対応型通所介護事業所の他、ボランティア活動拠点（ボランティアセンター支局）等が併設される。

\*ファミリーサポート事業／コーディネートの実施

■福祉輸送サービス事業の実施

\*平成18年4月～平成24年6月の間

■地域ふれあい交流イベント等の始動

（平成18年7月以降）

\*「新しい鄙（ひな）の創造」を目標に掲げ、地域福祉活動計画（ポケットプラン等）に基づく諸活動が展開される。村内の福祉施設・公民館等を活動拠点に「ふれあい寄席」「ふれあいコンサート」各種イベントが企画・開催される。地域住民有志や公民館関係者等と協働展開される。

■法人設立20年に向けた機構改革等に着手。特別委員会の設置。（平成19年5月）

\*企画調査委員会／理事・監事・評議員構成の見直しの研究・検討理事・評議員定数の是正（減員）・構成員を見直し、関連例規等の改定等（平成20年4月施行）



▲コミュニティハウス建部の里／竣工式典から  
▲公民館等を活動拠点に「ふれあい寄席」「ふれあいコンサート」各種イベントが企画・開催される。地域住民有志や公民館関係者等と協働展開される。



▲連澤会長と子どもたち（たてペ子ひろばにて）

\*老人福祉委員会／山形村の南部地区へのコミュニティハウス設置の研究・検討。地域密着福祉拠点整備の方針を決定する。

■災害時の福祉救援と共助活動をテーマに組織づくり開始（平成20年2月以降）

\*「福祉のつどい」で「防災」特別講演会開催

■「たてペ子どもひろば」の開催（平成20年7月以降）\*夏・冬休み開催、「憩い子どもひろば」を加え、現在に至る。

■社会福祉法人設立二十周年記念行事開催（平成20年12月）

\*20周年記念特別表彰 \*記念講演会開催

平成21年度～平成23年度

■住民主体（被災者主体）の防災（災害救援）活動の創造のための取り組み（平成21年4月以降）

\*災害対応学習会・先進地社協視察企画・地区自主防災会との協働・地域総合防災訓練への参画等

\*災害対応マニュアル作成と災害時対応研究の推進

\*災害救援ボランティアセンター立ち上げ訓練実施

（平成22年1月初回開催。以後、随時訓練実施）

\*災害時用備品の整備と村内各地区への貸与（配備）

**災害時用移動炊飯器セット** **災害時用屋外テント**

社協事務所・地区公民館配備（平成23年4月以降）

■町村社協連携／社協業務相互支援協定締結／社協経営等研究（平成21年4月以降本格稼働）

\*ちくまネットワーク連携から山ノ内町・御代田町・池田町・富士見町・山形村協の広域社協連携へ転換

■山形村社協／経営・組織（職員体制）・事業改革に着手（平成21年度～平成22年度）

■組織理念の制定 ■職務基準の制定・施行 ■関連例規改定（平成22年度～平成23年度）

\*常勤職員体制の見直し\*変形労働時間制本格採用等労務改革の実施

■各部に地域防災特設事業部の併設設置

\*準備段階を経て平成23年4月正式稼働

■東日本大震災等の被災地支援の実施

\*義援金受付窓口設置（平成23年3月）

\*救援物資募集・受付・送付（平成23年3月～4月）

\*被災地社協へ支援職員派遣（平成23年3月～5月）

\*復興支援チャリティーバザー開催（平成23年4月）

\*東日本大震災復興支援ボランティア（バスマック）の派遣

**平成23年派遣** **第1期**（6/20～6/23）22名

**第2期**（6/25～6/28）17名 **第3期**（8/8～8/11）19名

**平成24年派遣** **第4期**（5/3～5/6）4名（有志）

**第4期/通算第5期**（8/24～8/27）18名

**平成26年派遣** **第6期**（6/27～6/30）17名



▲自主防災会（小坂区）による総合訓練に参画



ボランティアバスバック／（於）岩手県山田町

■山形村有償在宅福祉サービス「たのみま処」の開設（平成23年4月）

■施設（複合福祉拠点施設）整備委員会発足／施設整備取り組み開始（平成24年3月）

事業年度	できごと 山形村保健福祉センターいちいの里 <b>業務拠点期</b>
平成24年度～平成26年度	<p>■施設（複合福祉拠点施設）整備委員会発足／施設整備取り組み開始（平成24年3月）</p> <p>■新事業拠点の増設／複合福祉拠点施設整備事業の推進（平成24年4月～平成25年3月）</p> <p>*起工式（平成24年9月21日）*上棟式（平成24年11月24日）</p> <p>*「いちいの里すばる」竣功式（平成25年3月24日）</p> <p>竣功記念行事／ふれあい交流イベントの開催</p> <p>■松本ブロック社会福祉協議会の事業・活動連携開始（平成24年11月以降）</p> <p>*地域福祉・権利擁護／災害VC担当者会議等開催</p> <p>■障害者生活・就労支援／地域交流センターすばるの設置（平成25年3月）</p> <p>*障害福祉サービスの山形村初の拠点施設として稼働</p> <p>*福祉なんでも相談室による事業の企画実施*軽食喫茶「ぼぼねっと」の経営（平成25年4月～平成29年3月）</p> <p>*ガーデン「ぼぼねっと」・工房「ぼぼねっと」・「ぼぼねっと企画・販売」等の実施（平成25年4月以降）</p> <p>■小規模多機能型居宅介護事業所すばるの開所（平成25年4月）</p> <p>*地域密着型サービスの新拠点稼働／（通い利用・宿泊利用・居宅利用のサービスのパッケージ利用拠点）</p> <p>■障害者就労支援センター／就労移行支援事業の実施（平成26年4月～平成28年3月）</p> <p>■松本ブロック社会福祉協議会相互応援協定の締結（平成25年1月）</p> <p>■長野県内社協の災害時相互応援協定の再締結（平成8年版の見直し）（平成25年1月）</p> <p>■青木村社協と山形村社協間で災害時相互支援協定の締結（平成26年8月）</p> <p>■松本ブロック社協と松本青年会議所及び塩尻青年会議所との災害時における協力に関する協定の締結（平成26年12月）</p>  <p>▲いちいの里すばる／竣功式典から</p>  <p>▲小規模すばる／山形小学校との交流風景</p>
平成27年度～平成30年度	<p>■障害者生活サポートセンターすばるの開所（平成27年4月）*障害児者の相談支援事業の稼働</p> <p>■まいさぼ出張相談所開設（平成27年4月）</p> <p>*フードバンク・ボランティア活動の展開</p> <p>■障害児通所支援事業所すばるの開所（平成27年10月）*放課後等デイサービス事業の稼働</p> <p>■災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定 山形村・同社協間（平成28年3月以降）*<b>締結施設</b>「デイサービスセンターいちいの里」及び「いちいの里すばる」</p> <p>■山形村生活支援・介護予防体制整備事業運営受託開始（平成28年4月以降）</p> <p>■日常生活自立支援事業の業務体制強化／準基幹的社協として運営開始（平成28年4月以降）</p> <p>■公益事業の事業部昇格設置（平成30年4月）</p> <p>*ぼぼねっと企画の活動・事業の活性化</p> <p>☒義援金受付等被災地災害支援活動を実施</p> <p>*熊本地震（平成28年4月）他被災地域への義援金募集・送金随時実施</p> <p>■信州パーソナル・サポート事業（生活困窮家庭の子どもに対する学習支援の業務受託（平成30年6月以降）</p> <p>■社会福祉法人設立三十周年記念行事催行</p> <p>*平成30年度福祉のつどいに併設（平成30年度12月）</p> <p>*30周年記念特別表彰・記念公演（落語会他）</p> <p>*テーマ「一人ひとりの『たから』をつなぐ」</p>  <p>▲災害ボランティアセンター立ち上げ訓練から</p>  <p>▲ぼぼねっと企画／料理教室の開催</p>



## 新時代の「福祉」を創造する

～「人」と「社会」と「自然」のめぐり合せの中に～

昭和63年7月、山形村社会福祉協議会は、社会福祉法人として設立されました。以来、私たちは、山形村の豊かな自然の恵みをいただきながら、この地域に縁のある皆様と共に、その一人ひとりの暮らしを繋ぎ、社会福祉の活動と事業の途を歩んで参りました。その営みから生まれる「人」と「社会」と「自然」が織り成すめぐり合せは、やがて私たちの中に「生き甲斐の源」を形成し、かけがえのない「たから（財）」となって、それぞれの記憶の内に昇華されてきています。

この本協議会の「社会福祉法人設立三十年のあゆみ」は、平成の世の「三十年の歴史」の中に織り描かれ、新しい時代へと引き継がれようとしています。更に、昭和34年4月には、当時の皇太子同妃両殿下（両陛下）のご成婚の佳節に期を同じくして、山形村社会福祉協議会の社会福祉法人設立以前の組織が創設されています。爾来、来年の4月には「還暦」を迎えることとなります。これら「社会福祉法人設立前後の社協のあゆみ」に一貫して重ね築かれた事績は、新元号を戴き、迎える新しい時代にあっても、新たな事業・取り組みの「道標」として、再び温ね証されて行くことでしょう。

本協議会の「社会福祉法人設立三十周年」は、組織理念（平成22年11月25日制定）に掲げる、「誰もが幸せに生きられる地域社会をつくる」こと、「一人ひとりの生きがい感に充たされた暮らしの創造をすること」を、達成すべき組織課題として再確認する節目として迎えました。私たち一人ひとりが、「人」と「社会」と「自然」の「めぐり合せ」を、「為合せ」「たから（財）」「かけがえのない存在」として繋ぐこと。結び合せること。新しい時代の「福祉」として創造して行くこと。そして私たちが、これらの取り組みを果たして行く覚悟をする機会のめぐりとして迎えました。

社会福祉法人設立三十周年記念誌／編集後記 常務理事／事務局長 小林 司 記

社会福祉法人設立三十周年記念誌 平成30年12月1日 社会福祉法人設立三十周年記念誌／編集委員会 発行

## 一人ひとりの「たから」をつなぐ -社会福祉法人設立三十年のあゆみ-

●発行 社会福祉法人 山形村社会福祉協議会（山形村保健福祉センターいちいの里内）

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村4520番地の1 ☎ 0263(97)2102 FAX 0263(97)2108

ホームページアドレス <http://poponet-yamagata.or.jp/>